

# マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

4月に赴任して、早いもので5か月が過ぎました(9月に執筆中)。

当初は、家族(子どもたち)と離れて過ごす日々を淋しく思うこともありましたが、仕事や研修はもとより、同じ屋根の下で生活をともにする特別研修生は、まさに同“志”。休日も含め毎日のように会話をするうちにすっかり打ち解け、今となっては卒業の日が来ることを淋しく思うようになりました(気が早すぎますが)。

## ◆仕事面◆

私は第1部課程第136期の課程担当として、研修の運営を行っています。講師の方々との日程調整など気を遣うことも多々ありますが、やはり一番は、研修生の皆さんに、いかに不安なく研修に臨んでもらえるか、その準備に腐心する日々です。

課程担当として研修を運営するのは、この1期限り。2度目はありません。準備なくして円滑な研修環境は提供できないということを思い知りつつ、この研修をもって卒業する研修生の皆さんに快適な研修生活を過ごしてもらえよう、日々、緊張感を持って運営に当たりたいと思っています。

## ◆生活面◆

そんな緊張感ある日々を和らげてくれるのは、やはり寮に戻ってからの一時です。私の部屋は自治大の中庭に面しているので、窓から見える景色はまるで森の中。

そんな景色を眺めながら朝食を摂ったりしています。



また、自治大周辺は区画が広いので、ちょっと出歩くにも、徒歩では限界がありますが、貸与される自転車を使えば、一気に行動範囲が広がります。

駅周辺の駐輪場には2時間無料、3時間無料というところもあり、週末だけではなく、平日も夕方からせせと出かけては、新たなスーパーや飲食店などを開拓して、特別研修生間で情報交換しています。

寮での共同生活はコロナ禍でもあり、様々な制約もありますが、これからの人生においてそう経験できることではありません。

自治大での生活は、日々、非日常感を味わえる貴重な時間となっています。(E. H)